



聖フィリップ教会

（長崎巡礼③）

豊臣秀吉がキリスト教禁教令を出して十年後の一五九七年、長崎西坂で二十六人のキリ

シタンが処刑された。その中の一人、メキシコ人で二十四歳のフィリップ・デ・ヘスはフラン

シスコ会の修道士。フィリップで司祭になるための勉強を終え、祖国メキシコで司祭叙階を受けるため帰国する途中、船が遭難して日本に漂着した。一五九六年のことである。



日本二十六聖人記念聖堂

日本にキリスト教を伝えたサビエルが属するイエズス会は、禁教令後は表だつた活動を控えていた。

しかし、一五九三年にフィリップ総督の使節として来日したフランシスコ会の司祭、ペドロ・パプチスタは日本にフランシスコ会を創設するために京都で活発に活動し、教会や病院を建設していた。

秀吉は遭難して漂着した船にフランシスコ会の修道士が乗船していたことを知ると、国内にいたフランシスコ会司祭と一緒にフィリップ・デ・ヘスも捕縛し、長崎で関係者二十六人を処刑した。

前回触れたように禁教奨商という状況の中で突然の大量処刑には不自然なものを感じる。とりわけ、たまたま遭難船に乗り合わせ、布教活動もしていないフィリップの処刑。これは遭難船のばく大な財宝を没収したことを正当化するためのものと考えられるが、それにしても二十

四歳の若さで祖国メキシコで司祭になる夢を断たれ、日本で殺されたフィリップのことを思うと胸が痛む。

バチカンボラ二十六人に一八六二年「聖人」の称号を与えた。フィリップ・デ・ヘスはメキシコで最初の聖人となり、今も国民から尊敬を集めているという。

カトリック信徒にとってメキシコは褐色の聖母、グアダルルーペの信仰の厚い国として多少なじみがあるが、今回、この記事を書くまで、メキシコが世界でブラジルに次いでカトリック信徒が多い国とは知らなかった。

一九六二年(昭和三十一年)、日本二十六聖人列聖百年を記念して、処刑地、長崎西坂に記念碑と記念館、それに記念聖堂が建てられた。



左からアギラール、大木、クラークスの三神父によるミサ

特に記念聖堂は聖フィリップ・デ・ヘスの祖国、メキシコからの浄財によつて建てられたので「聖フィリップ教会」ともいわれる。

スペインのサグラダ・ファミリア教会をイメージして設計された聖堂。十六人の塔にはフィリップと一緒に殉教した四人のスペイン人宣教師のために祖国から送られてきた陶芸品や連行された京都、長崎間の陶磁器で壁面が飾られている。

「愛は忍耐強い。愛は決して滅びない」(コリントの信徒への手紙(十三章))

◇ ◇